

半島の振興を促進するための三重県御浜町における産業の振興に関する計画

平成25年 4月 1日作成
三重県 御浜町

1. 計画策定の趣旨

御浜町は、紀伊半島、三重県南部に位置し、東西12km、南北13.5km、総面積は88.28km²です。東部は雄大な太平洋熊野灘に面し、北西部は熊野市、南部は紀宝町に隣接しています。地形は、海岸沿いが比較的平坦地で、内陸部に向かうにつれ、丘陵地帯を経て次第に山岳地帯を形成しています。

典型的な海洋性気候で降雪はほとんどなく、年間の平均気温は17.6℃、年間の降水量は2,300mmの温暖多雨な気候です。

人口動向は、平成2年から平成17年の国勢調査結果で見ると、わずかな増減が見られるものの、人口はほぼ横ばいで推移しており、平成17年では、総人口が9,903人、世帯数は4,101世帯となっています。

平成17年の高齢化率は31.4%と全国平均（20.1%）、三重県平均（21.5%）を大きく上回り、年少人口比率は14.0%と全国平均（13.7%）を上回るものの、三重県平均（14.3%）を下回っており、少子高齢化は着実に進んでいます。

御浜町は、温暖な気候を活かした柑橘栽培が盛んで「年中みかんのとれるまち」をキャッチフレーズに柑橘類や梅などの果樹栽培を中心とした農業の町です。

また、水産業では、定置網等の沿岸漁業が中心で、林業では森林の複層林化など環境に配慮した森林管理を進めています。近年は、第1次、2次、3次産業が融合した第6次産業化が進み、農林水産物の加工など関連産業と連携した取り組みも行われています。

商業については、商工会を中心に地場産業の振興を図っており、東紀州地域振興公社等との広域連携により、地域特産品の地域外での販売活動が積極的に実施されています。

また、工業については、長期にわたる景気の低迷や国際間競争の激化等を背景に、事業所数、従業者数、製造品出荷額ともに減少傾向にあるほか、企業立地の停滞といった問題を抱えています。

御浜町は豊かな自然に恵まれ、「熊野古道」などの貴重な歴史遺産を有するまちです。これまでも「熊野古道」等を活用したイベント等の開催を通じて集客を図るなど、観光・交流資源を活用し、集客交流産業の振興にも取り組んでいます。

2. 計画の対象とする地区

本計画の対象地区は御浜町全域とします。

3. 計画期間

本計画の計画期間は、平成25年4月1日から平成30年3月31日までとします。

4. 対象地区の産業の振興の基本的方針

御浜町の産業の現状と課題

①農業の現状と課題

御浜町では、基幹産業である農業の発展を目指し、農業生産基盤の整備、担い手の育成をはじめ、多様な農業振興施策を関係機関・団体と一体となって推進し、柑橘を中心とした農業が町の経済活動の大きな柱となっていると同時に、「年中みかんのとれるまち」としての知名度向上に向けて鋭意取り組んできました。

しかし、農業を取り巻く環境は依然として厳しく、農家数の減少や就業者の高齢化、担い手不足、これに伴う遊休農地や耕作放棄地の増加、農地の集積の停滞、獣害の増加などの問題が深刻化してきています。

このため、農業生産基盤の一層の充実を進めながら、担い手の育成・確保、効率的な生産組織や集落営農体制の強化、農業経営の法人化の促進等による経営体制の強化をはじめ、獣害対策や優良農地の保全及び有効活用、農業生産基盤の充実に努めるとともに、地域特性に応じた付加価値の高い特産品の開発、流通システムの高度化等を促進していく必要があります。

また、環境保全型農業や地産地消など、時代の要請等に即した農業の促進に努め、地域ブランドとして誇りうる安全・安心な産地の形成と農業の持つ多面的機能の保全・活用を進めていく必要があります。

②林業の現状と課題

森林は、本町の面積の約65%を占め、緑豊かなまちの景観を形づくっています。これまでも森林の持つ多面的機能の保全を図るため、間伐や作業道の整備等に取り組んできました。

森林については、森林の持つ多面的機能についての理解度が向上しました。近

年、従事者の減少や高齢化などに伴い、生産活動が停滞し、林業を取り巻く情勢は未だ厳しい状況であり、森林機能の総合的な低下が懸念されています。このような状況から、今後は、森林が将来にわたって適正に管理され、木材生産機能と森林の持つ多面的機能が持続的に発揮されるよう、林業生産基盤の整備や合理的・計画的な森林施業の促進に努めるとともに、森林の保全及び育成、森林空間の総合的利用に努める必要があります。

③水産業の現状と課題

水産業は、熊野灘を漁場とする定置網等の沿岸漁業が主体で、これまでに、漁礁の設置や稚魚放流による栽培漁業や資源循環型漁業を促進してきました。

しかし、水産業を取り巻く環境はますます厳しくなる中、限りある水産資源を守り育てる資源管理型栽培漁業を積極的に進め、漁場環境整備などとともに、栽培漁業の促進に努め、「つくり、育てる」水産業に取り組む必要があります。

④商業の現状と課題

商業については、商工会等の広域的な連携を図りつつ、地域外での特産品販売活動、新商品開発等に取り組みながら、地場産業の振興を図っています。

しかし、車社会の一層の進展や近隣への大型店の進出、消費者ニーズの多様化、高度化等を背景に購買力の流出が勢いを増し、高齢化や人口減少とも相まって取り巻く環境は一層厳しさを増しています。

このため、商工会活動を通じて、商店個々の経営の健全化、サービスの向上等を促進していく必要があります。

⑤工業の現状と課題

工業については、企業立地条件の整備として、高速道路整備等を関係機関に要請を継続しながら、工場立地を目指す企業等の情報を継続的に収集しています。

しかし、長期にわたる景気の低迷や国際間競争の激化等を背景に、事業所数、従業者数、製造品出荷額ともに減少傾向にあるほか、企業立地の停滞といった問題を抱えています。

今後は商工会等の活動を通じて、既存企業の体質強化、健全化に向けた支援はもとより、新たな特産品づくりや雇用の創出等に向けた取り組みを進めていく必要があります。

⑥集客・交流産業の現状と課題

本町は豊かな自然に恵まれ、「熊野古道」「七里御浜」などの貴重な歴史遺産・自然資源を有するまちです。

これまでも「熊野古道」「七里御浜」など、観光・交流資源を活用し、集客交流産業の振興に取り組んできました。

しかし、日帰り客がほとんどを占めているほか、数多くの地域資源も、観光客が年間を通して繰り返し訪れる魅力ある観光・交流資源として活用されているとはいえない状況にあります。

このため、自然志向・健康志向の強まりや癒しを求めるニーズの増大、既存観光・交流資源を活用しながら、施設等のネットワーク化や新たな観光資源の掘り起こしをはじめ、体験型交流、通年型の観光地づくり、交流人口の増加に向けた多面的な取り組みを町一体となって進めていく必要があります。

⑦交通網の現状と課題

御浜町では、JR紀勢本線と国道42号が海岸沿いを走り、JR紀勢本線は町内に「神志山」「紀伊市木」「阿田和」の3駅を有しています。

道路交通としては、国道42号と国道311号を骨格として、県道や主要町道によってネットワーク化されており、道路網の整備が着実に推進されてきました。

引き続き関係機関と連携しながら、国道・県道の整備を促進するとともに、町道については、紀南バイパス（仮称）の早期整備促進と将来の道路の維持・管理を踏まえ、町道の状況（舗装道路・橋梁等）を把握した上で整備を進める必要があります。

さらに、東紀州地域の中心都市である熊野市と尾鷲市を連絡する熊野尾鷲道路の整備が進んでおり、近畿自動車道紀勢線と一体となった交通ネットワークの形成は、地域の交流と活性化に大きく寄与する社会基盤となることが期待されます。

5. 産業の振興の対象とする事業が属する業種

製造業、農林水産物等販売業、旅館業、情報サービス業等

6. 事業の振興のために推進しようとする取組・関係団体等との役割分担

御浜町の産業振興のため、以下のとおり各主体が実施する取組及び連携して実施する取組を推進します。

(1) 御浜町

租税特別措置の活用の促進、地方税の不均一課税、立地・設備投資・雇用促進・産業育成のための補助金等、地域外企業誘致のための取組、産業振興（起業や事業高度化等）のための人材育成のための取組、インキュベーション施設の設置、融資制度の斡旋、信用保証事業の拡大、雇用情報の提供の充実等

(2) 三重県

租税特別措置の活用の促進、設備投資・雇用促進・産業育成のための補助金等、地域外企業誘致のための取組、産業振興（起業や事業高度化等）のための人材育成のための取組等

(3) 商工会

経営者研修等による人材育成、経営改善指導、異業種交流の促進等

(4) 農業協同組合

農業用加工機械の導入支援等

7. 計画の目標

	平成25(2013)年から平成30(2018)年までの目標増加数	
	新規設備投資事業者数	新規雇用者数
製造業	1	3
旅館業	1	1
農林水産物等販売業	2	6
情報サービス業等	1	1